

# ブラウン管式テレビの再商品化等基準について

中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会  
特定家庭用機器の再商品化・適正処理に関する専門委員会

産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会  
電気・電子機器リサイクルワーキンググループ  
家電リサイクル制度における品目追加等検討会

第3回合同会合

# ガラスのリサイクルに関する考え方

## 現行基準設定当時(平成11年)の考え方

- ・ テレビジョン受信機のブラウン管は、新法の本格施行当初からガラスとしてのリサイクルの対象とすべき。
- ・ また、新法の本格施行後においては、素材回収効率の向上が図られるべき。

## 家電リサイクル制度の施行状況の評価・検討について (報告書抜粋・平成20年)

- ・ ブラウン管ガラスカレットについては、国際的にブラウン管式テレビから液晶テレビ・プラズマテレビへの転換が加速化している状況の中、その需要が減少傾向にあり、他のガラス用途への転用も技術的に課題が大きい。したがって、引き続きメーカーのブラウン管ガラスカレットの再商品化に向けた販路開拓努力等を継続しつつ、その再商品化の在り方について将来的に検討していく必要がある。

# 現状の再商品化状況

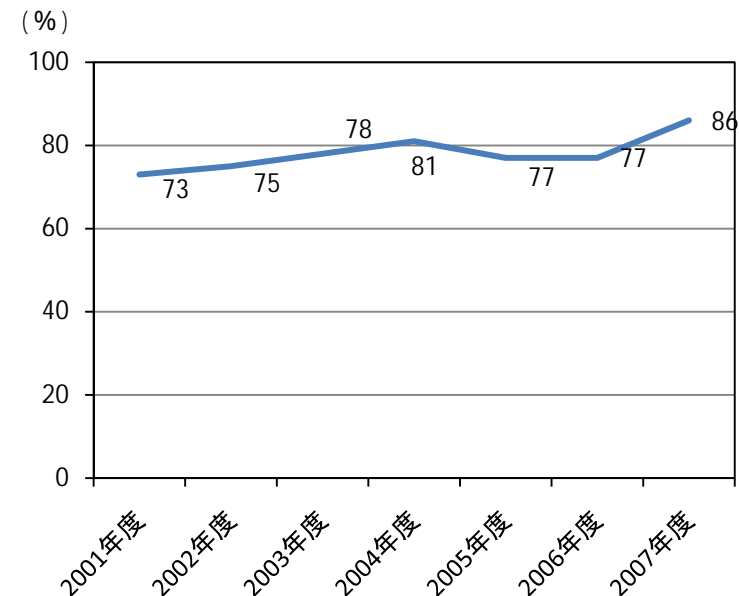
ブラウン管テレビの再商品化については、法定基準を上回る高い水準で推移している。

ブラウン管ガラスカレットの利用用途の維持・開拓努力  
プラスチック等のリサイクルの推進による再商品化量の増加

ブラウン管テレビの再商品化の状況

		2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
ブラウン管 テレビ	処理重量	80,000	95,000	96,000	103,000	108,000	118,000	134,283
	鉄	6,257	7,235	8,013	8,167	8,678	11,620	13,881
	銅	2,714	3,369	3,602	3,835	4,068	4,456	4,951
	アルミ	155	188	183	123	192	85	73
	非鉄・鉄等混合物	242	483	767	1,100	1,035	892	1,199
	ブラウン管ガラス	45,153	55,075	55,975	60,818	53,727	52,394	68,269
	その他有価物	4,291	5,756	7,481	9,823	15,820	21,645	27,190
	合計	58,814	72,110	76,025	83,868	83,530	91,092	115,563
再商品化率(%)	73	75	78	81	77	77	86	

ブラウン管テレビの再商品化率の推移



出典：家電リサイクル年次報告書(平成18年度版) ((財)家電製品協会)に2007年度実績を追加

# 課題

## 環境負荷

- ・ 鉛を含有するブラウン管ガラス自体の有害性(溶出等)
- ・ (破砕等の後、最終処分された場合)各家庭に存在し、かつ比較的重量のあるブラウン管ガラスの最終処分量の増加

## ブラウン管テレビの廃棄量の増加

- ・ 2011年アナログ放送停波によるブラウン管式テレビの廃棄量の急増(及び正確な廃棄量の予測の困難性)
- ・ 諸外国におけるテレビの廃棄動向(諸外国のブラウン管ガラスカレットの処理についても問題になる可能性有り)

## 再商品化・処理技術

- ・ ブラウン管ガラス以外へのリサイクルは受入量が限定
- ・ 受入量の多いリサイクル技術(や効率的な適正処理技術)が未確立

## その他

- ・ 液晶・プラズマテレビのパネルガラスについては、今後、ブラウン管ガラスと同様の問題が生じないように、再商品化後の用途開発や再商品化しやすいパネルの導入など早い段階での対応が必要ではないか。

# 今後の方針

- ・法定再商品化率：55%
- ・現状の達成率：86%  
(平成19年度実績)
- ・再商品化率向上の努力を続けることは重要

アナログ放送停波等を踏まえたテレビの廃棄動向

諸外国におけるテレビの廃棄動向

精製ブラウン管ガラスの用途及び技術開発

各用途における精製ブラウン管ガラスの需要

様々なリスク

資源の有効利用性

環境保全  
(鉛の適正管理)

費用対効果

- ・現状高い再商品化率が達成されており、引き続きリサイクルの推進を図る一方で、今後のリスクがあることを踏まえ、再商品化率は、当面、現状を維持すべきではないか。
- ・その一方で、状況に応じて、臨機応変に対応できる準備が必要ではないか

臨機応変に対応できる準備

## 今後の更なる取組の方向性

- ・ブラウン管ガラスの再商品化が困難となるような将来的な事態を想定し、処理のための試験や取扱方法等の個別対策のみではなく、業界をまたぎ関係者一同の関与の下で、対策を進めるべきではないか。

## ブラウン管ガラスカレットのリサイクル等に関するロードマップ

- ・ブラウン管ガラスカレットの需給予測、各種リサイクル技術等を幅広く検討した上で、状況に応じて柔軟に対応できるブラウン管ガラスカレットのリサイクル等に関するロードマップを検討するべきではないか。